

森林づくり指針の各種指標について（概要）

1 趣 旨

現在、県において森林づくり指針の各種指標の検証を行い、現時点の分析結果を取りまとめたので、様々なお立場から検証の内容についてご意見をいただきたい。

2 背 景

森林づくり県民税活用事業を含め、県の森林・林業施策の方向性を「森林づくり指針」で定めており、各項目における目標値を設定し取り組んでいるところ。

森林税を活用した事業については、毎年度の県民会議や地域会議などでご意見をいただきながら、事業の振り返り改善を行っているものの、森林づくり指針の指標に対する毎年度の検証が行われていない状況であることから、森林税活用事業と併せて、指標の評価・検証を行っていきたい。

3 検証結果

森林づくり指針全17指標のうち、R6年度実績で目標値の達成率9割未満の指標は7指標。これについて、進捗が低位な要因や指標の妥当性等について検証を行い、結果は次のとおり。

◆ 目標達成が困難（9割未満）な指標の状況（R6）

※7指標以外の9指標については、9割以上の達成率であり、概ね順調に進捗

区分	指標	状況	指標の見直し
① 目標設定自体が適当でなかったもの	森林の集積・集約率	<ul style="list-style-type: none"> ・所有権等や境界の明確化拡大を目指し設定したが、効果測定を「適正に管理している森林」として経営計画策定森林等により判断（計画促進を目標） ・補助金受給のために策定することが一般的である同計画の計画期間（5年）終了後に、補助金インセンティブが働かない中、継続を求めるることは現実的に困難 ・経営が厳しい森林は計画策定自体が難しいことや、所有権等が明確化している大規模森林に計画策定を求める実益が少ない 	要

② 関係者との目標共有に課題があったもの（目標達成に向け行動が不足）	造林面積 【森林税】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域毎の目標値が示されておらず、地域において進捗状況の判断ができないため、地域振興局や事業体が目標値に向けて、具体的にどのような対応をすればよいか不明瞭 ・地域バランスを考慮した結果、取組が進んでいる地域に必要な予算をつけきていない ・ベースとなる国予算配分を間伐から再造林へさらに積極配分することで、R 8年度は目標値 840ha を達成する見込み 	否
	ニホンジカの捕獲数	<ul style="list-style-type: none"> ・県目標値に対し、32 市町村の目標値が県計画を下回る数値であり認識に差がある 	否
	地域林業の中核的な指導者数	<ul style="list-style-type: none"> ・林業士として認定されるメリットがない 	否
③ 社会経済情勢の変化等により投資（金・人・モノ）が不足するもの	森林整備面積（間伐、下刈り、造林面積の計）【一部森林税】	<ul style="list-style-type: none"> ・指標作成時は公共造林予算 27 億円を前提にしたが、実際は 21 億円程度で推移 ・物価高騰により標準経費が 10%程度上昇 ・森林整備面積に含まれる下刈面積について、低コスト化を踏まえた面積計上に要修正 ・主伐・再造林を優先実施する中の間伐必要箇所の再定義が必要 	要
	製材品出荷量	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅着工戸数や床面積が減少 ・県産材を多く活用する地域工務店のシェアが大手ハウスメーカーに奪われている 	要
	多様な林業に関わる 新規就業者数 【森林税】	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業体等に雇用された人と創業により新たに参入した人の総数であるため、移住、転職者数等の多寡に影響される 	否

4 指針全体を通じて（今後の方向性）

✓ **指標検討時**：振興局や事業体との意識合わせや現場の実情の確認が弱い

⇒ (対応) 本庁主導による指標数値を再設定するのではなく、一定期間の検討期間を設け、地域毎の数値の積み上げにより目標値を再設定する

✓ **指標設定時**：地域別の目標・目安を示しておらず、振興局や事業体が自分ごと化できない

⇒ (対応) 本庁で目安を示したうえで、局別の目標値を作成し、各地域の進捗状況の見える化を図る。

✓ **指標設定後**：事業評価や手法見直しに関する手続きがない（森林税事業は県民会議で検証）

⇒ (対応) 森林税事業と合わせて、県民会議や森林審議会の場を活用して毎年森林づくり指針の検証・評価を行う